

2022年9月9日

米州開発銀行が発行する 「サステナブル・ディベロップメント・ボンド」への投資について

大樹生命保険株式会社(代表取締役社長 吉村 俊哉、以下「当社」)は、この度、米州開発銀行(Inter-American Development Bank、以下「IDB」)が発行する豪ドル建サステナブル・ディベロップメント・ボンド(以下「本債券」)への投資を実施しました。

IDB グループは、中南米・カリブ海加盟諸国における貧困と不平等の削減、そして地域の持続可能な成長の実現を目指しています。また、IDB グループはこの目標実現のために 6 つの戦略的優先分野を定めており、本債券への投資はその一つである「気候変動と環境の持続可能性」に関連する取組みを支援するものです。

森林が気候変動による影響への緩和と適応、生物多様性の維持、また経済の発展において重要な役割を果たすためには、持続可能な方法で管理・保護されることが必要です。しかしながら、中南米地域の熱帯雨林では開発に加えて近年では火災が多発するなど、森林面積減少に拍車がかかっています。本債券によって調達された資金は、各国において荒廃した森林を回復させ既存の森林を保護するための、持続可能な農業の導入・拡大、森林資源管理システムの向上、持続可能な農村・森林開発を促進するための各種研究などを始めとする、IDB による中南米・カリブ海加盟諸国の経済・社会発展のためのプロジェクトに充当される予定です。

当社は、“緑・自然を守り、親から子へと美しい緑の街を伝えたい”という願いを込めて、1974 年に「苗木プレゼント」を開始しました。「こわさないでください。自然。愛。いのち。」というテーマのもと、日本全国の企業、公共団体、学校、病院などの団体および一般家庭に対して、気候や生育条件にあった苗木を配布し続け、これまでに贈呈した苗木の本数は累計 526 万本になりました。資産運用においても当社の思いを形にするべく、本債券は、森林保護の重要性を発信することを目的として、中南米地域における森林保護の取組みを支援する IDB との直接的な協議を経て発行に至ったものです。

これまでも当社では環境債(グリーンボンド)や社会貢献債(ソーシャルボンド)、ESG 投信などへの投資を行ってきました。今後も引き続き生命保険会社としての社会的責務をふまえ、資産特性に応じて環境・社会・ガバナンスの課題を考慮した資産運用を行い、環境や地域・社会と共生し、経済・企業の安定的な成長と社会的価値の調和的な発展を目指します。

<本債券の概要>

発行体	米州開発銀行
格付け	AAA(S&P) / Aaa(Moody's)
発行総額	40 百万豪ドル
償還期間	15 年

【IDB が取り組むプロジェクト事例】

アルゼンチン: 森林の持続可能性の向上と林業の付加価値拡大



©IDB

このプログラムは持続可能で競争力のある大規模育成林を構築することで、林業製品の品質向上や生産基盤の多様化、中小企業のサプライチェーンへのアクセス向上を図り、林業の付加価値と環境の持続可能性を向上させることを目的としています。本プロジェクトを通して 30,000 ヘクタールの高品質の大規模育成林が新たに造林され、苗床から 500 万本の苗木が作られる見通しです。

ホンジュラス: 持続可能な森林管理

ホンジュラスの森林ではゾウムシによる被害が深刻となっています。森林の喪失が、森林システムに生活を依存している人々に影響を及ぼす恐れがあります。害虫早期警報システムを導入すると同時に、害虫や気候変動の影響を受けにくい樹種を植林することにより、森林の生成を早めます。これらの対策は河川の水位を高めることにもつながり、木材や樹脂の生産促進にも貢献します。



©IDB

* 上記プロジェクトは、事例のご紹介のみを目的としており、今回のサステナブル・ディベロップメント・ボンドの資金の活用を上記プロジェクト又はその分野に限定するものではありません。

【本件と関連性の深い SDGs テーマ】

